

特集：英語学習の「軸」となる『アクシスジーニアス英和辞典』誕生！

よくある間違いから学ぶ ——正確さを知る手立て

黒澤隆司



イラストは教え子による

私の勝手な思い込みかもしれないが、どうも最近の日本の英語教育では正確さが求められなくなったように感じる。英語を読む場合も、書く場合も、話す場合も、聞く場合だって、何となく大雑把にできればいい、そんな感じがしてならない。「英文法」なんてものは、もしかしたら昭和の遺物とされる時代がすぐそこにやって来ているようにさえ思える。何しろ細かいことを言うよりどんどん使って英語を身につける時代のようなだから。

しかし、どんな言語だって、外国語として学習するのに文法を知らないでできるようになるはずがない。外国語をきちんと勉強した人なら間違いなく文法の大切さをひしひしと感じるだろう。

そんな時代だからこそ、「正確さ」を大事にしたい。この度、刊行された『アクシスジーニアス英和辞典』（以下、AG）では、英語の文法・語法に興味を持ってもらい、正確な英語を学んでもらいたいという趣旨から、類書にはない「Typical Mistakes 100」というコーナーを巻末に設けた。ある日本語を英語で表す際に、日本人の中級学習者が（いや場合によっては上級者であっても）間違いやすい例を100挙げ、正しい英語を記した。また、それらを詳しく知るには、AGのどの語を調べればいいのかを示した。当該箇所を是非読んでみて欲しい。考え方の説明が書いてある。

◆日本語にひきずられての間違い

例えば、「恥ずかしい」という日本語で、中学生や高校生が最初に思い浮かぶ英語は何だろうか。おそらく ashamed ではないだろうか。

⑤ 転んだので恥ずかしかった。

✕ I was ashamed because I fell down.

○ I was **embarrassed** because I fell down.

(→ashamed 図① 語法)

ashamed を見てみると、ashamed は罪の意識・良心の呵責から「恥ずかしい」の意で、embarrassed はしくじってきまりが悪かったり人前でどぎまぎしたりして「恥ずかしい」の意とある。

このように、日本語に引きずられてしまう間違いを本コーナーでは重点的に扱っている。

⑬ オーストラリアからの観光客は刺身に挑戦した。

✕ The Australian tourist challenged sashimi.

○ The Australian tourist **tried** sashimi. (→challenge 動④② 語法)

⑱ 昨夜、変な夢を見た。

✕ I saw a strange dream last night.

○ I **had [dreamed]** a strange dream last night. (→dream 図①)

「趣味」という日本語もやっかいである。中学生あたり（今は小学生か？）が自己紹介の際に用いたがる hobby だが、これも制約がある。

④④ 私の趣味はテレビを見ることです。

✕ My hobby is watching TV.

○ My **pastime** is watching TV. (→hobby 図 語法)

hobby は特別な知識や技能が必要で、切手など何かを収集すること、写真撮影、楽器演奏など

ど、ふつう1人でするものをいう。日本語の「趣味」は音楽鑑賞、旅行、読書なども含むが、これらは pastime (余暇の過ごし方) という。「テレビを見ること」も hobby と言わないので、「私の趣味はテレビを見ることです」は My pastime is watching TV. となる。「趣味」と hobby は違うと前々から叫んでいるのだが、一向に変わらない。AG 出版とともに正しい使い方が広まってくれることを願っている。

◆文法・語法面での間違い

文法・語法面でも大切なことが出ている。could と was / were able to の違いも日本人学習者にはわかりづらい。

㊦ この春に運転免許を取ることができた。
 ✕ I could get my driver's license this spring.
 ○ I was able to get my driver's license this spring. (→could ㊦ 語法)

could の項の語法欄を見ると、a) 一般に、I could do it. と言えば「しようと思えば(これから)それをすることができる」という仮定法の意味になるのがふつう。これを「(特定の時に)それをすることができた」のように過去の1回限りの行為に使うのは通例不可。代わりに was / were able to を使う：I was able to [✕] could] get my driver's license this spring. was / were able to 以外に managed to do, succeeded in doing も用いることができるが動詞の過去時制ですませることも多い。b) 次の場合は例外的に could の使用が認められる：i) 否定文あるいは almost, nearly, hardly, only, just (かろうじて) などの副詞と共に使われた時《この場合は couldn't も was / were not able to もほぼ同じ》：Frank was sick. / He couldn't play in the match. / The train was so crowded that the passengers could hardly move. ii) how 疑問文の時：How could you do such a

thing? iii) 次のような決まった言い方で：I'm (so) glad you could come. iv) 知覚動詞や認識動詞と用いる時。後半は、一般の高校生用の文法書ではあまり見かけない記述かもしれないが、指導する側は知っておいてもいい情報だろう。

何しろ100あるのだから、ひとつひとつ挙げていたらきりが無い。詳細は先生方が実際に AG を手に取って是非お読みいただきたい。

◆どのように活用するか

では、この Typical Mistakes をどのように使っていったらいいか。

中級学習者には是非 AG を読んでいただきたい。英和辞典には、いろいろな情報が載っているということを学習者に知ってもらいたい。

毎回授業の最初に、Typical Mistakes 100 にある日本語を英語にさせてみてはどうだろう。そして、フィードバックとして当該の説明を読む。時間的に厳しいというのであれば、いくつかを選んでいただいてもかまわない。また夏休みなどの長期休みの課題として活用できないだろうか。

生徒がある程度自分で学習できるのであれば、自主的な課題として事前に勉強させ、試験範囲に入れてしまうのも手かもしれない。その際、日本語に対して正しい英語を書かせる。

単調な英文法の演習では退屈してしまうのであれば、アクティブラーニングとして、調べさせて発表させるのもいいだろう。他の辞書に書いてあることと比較させることもできる(大学の英語の時間にどの程度できるか挑戦させるのもいいように思う—100点満点とれる学生がどのくらいいるかちょっと不安もあるが)。

先生方には、是非、これらの mistakes と正解の説明を頭の片隅において、このような英語が教材に出てきた際には、ちょっと一言話していただいて、生徒が正しい英語を学ぶのに役立てていただけると幸いである。

(くろさわ たかし・日本大学第二中学・高等学校教諭)